穂　学

令和元年度
広州日本人学校学校便り
［Ｎｏ．４］
令和元年７月10日（水）
発行責任者 教頭 渡邉美佐子

「互見授業による道徳科の授業づくり」

校　長　　喜屋武　浩司

７月に入り、比較的天気のよい日が続いていますが、晴れていてもいつ局地的に雨が降るか分からないのが広州の天気の特徴のように思われます。外出の時は傘は必需品と言えるでしょう。

さて、平成２９年３月に告示された学習指導要領に基づき、現在、小学校及び中学校では完全実施に向けた移行期間となっています。今回の学習指導要領の特徴は、学習面で小学校外国語の教科化、小中学校での道徳が「特別の教科　道徳」として位置づけられたことなどが挙げられます。また、教育課程面では「社会に開かれた教育課程」「カリキュラムマネジメント」などが求められています。

このような中、本校では昨年度より道徳の教科化に向け、校内研究で「道徳の授業づくり」や「評価の工夫」などに取り組んでいます。

具体的には昨年度から実施している「一人一研究授業」の実践です。昨年度は学期ごとに指定された日の午前中（４時間連続）に研究授業を実施・参観するものでした。これは集中して実施できるメリットもありますが、授業をやりくりして参観することが難しいというデメリットもありました。

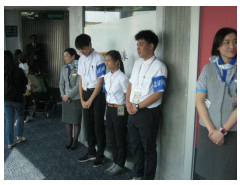
そこで、今年度は一人一人の先生方がじっくりと授業参観することができるよう、年間４回の授業月間（６月、９月、11月、１月）を設け、その期間内で各学年部（小学部：低・中・高学年、中学部）の代表が授業を実施し、相互に授業実践と参観を行う「互見授業」を実施することとしました。

６月は実施順に、横井信行教諭（6-1）、馬場ひとみ教諭（1-1）、枝廣直樹教諭（4-1）、溜久美子教諭（中学部 2-2）の４名が代表授業を行いました。他学年・他学部の先生方が多く参観し、今後の授業づくりのおおいに参考にるものでした。特に、同学年の先生方にとっては、自分自身がその授業を実施する際の参考になり、授業がさらにより良いものになっていきました。

今後もこのような授業実践を通して、児童生徒の道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲や態度）の涵養を目指していきたいと考えます。

また、教科化になったことで「道徳の評価」も求められます。授業や学校生活などを通して見られる児童生徒の成長や努力を認めたり、励ましたりすることにより、児童生徒自身が成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような所見を目指しています。１学期通知表の所見をお読みいただき、ご家庭での話題としていただくと幸甚です。

中学部３年　職場体験



小学部４年　台湾人学校との交流会

【住所変更について】

住所変更については、担任に連絡後、ホームページを確認の上、バス入退会手続き専用メールアドレスへ、住所変更届けの送付をお願いします。ストップによっては残席数により、乗車できない可能性もありますので、ご承知おきください。